

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013 年 10 月

「パート II - 贖罪の犠牲における大祭司としての働き (II)」

「精錬された教会」 「第一天使のメッセージ (III)」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「パートII-
贖罪の犠牲における大祭司としての働き (II)」 4

朝のマナ

「精錬された教会」 10
信仰によってわたしは生きる

現代の真理

「第一天使のメッセージ (III)」 42
三重のメッセージ

力を得るための食事

「豆乳あずき寒天」 50

お話コーナー

「小さいときに、大きくなる」 52

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話 : 0494-22-0465
FAX : 0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>
メール : support@4angels.jp

発行日 2013 年 9 月 30 日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;
HighRes on pages 48

すべての者の特権

神に受け入れられ祝福されるような生活することは、すべての者の特権である。われわれが、常に罪の宣告と暗黒のもとにあることは、われわれの天の父のみこころではない。……われわれは、イエスのところへ行って、清められ、律法の前にはばかることなく立つことができるのである。「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない」(ローマ 8:1)。(各時代の大家闘下巻 207, 208)

神に仕えていると言いながら、神に関する体験的知識を持っていないものが多い。神のみこころを行ないたいという願いも、ただ一時の気まぐれによるもので、心が聖霊に深く感動したためではない。彼らの行動は、神の律法と一致していない。口ではキリストを救い主として信じると言いながら、キリストが彼らに罪に打ち勝つ力をお与えになることを信じない。(キリストの実物教訓 25)

神の霊は、われわれを真理に導くのである。しかし、あなたがたは言うであろう。人は誤りの中にいながら自分は真理を持っていると考えるときがある。その場合はどうなのか、と。われわれはこう答える。霊と言葉とは一致する、と。もし人が、神の言葉によって自分を判断し、神の言葉全体と完全に調和していることがわかれば、そのときには自分は真理を持っていると信じなければならない。しかし、もし自分を導いている霊が、神の律法や聖書の全体の主旨と調和しないならば、悪魔のわなに捕えられることのないように、注意して歩かなければならない。(各時代の大家闘下巻 103)

神の律法が、その正当な位置に回復されて初めて、神の民と称する人々の間に、初代の信仰と敬虔のリバイバルが起こり得るのである。(各時代の大家闘下巻 209)

いつでもあなたの欠点を告白し、それらを捨てようと切に望んでいなさい。そうすることによって、あなたの過ちと罪が前もって裁きに持ち出され、除去されるためである。(教会への証 5 巻 331)

彼らは、純潔な者である。そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。……彼らの口には偽りが無い。なぜなら、彼らは神の御座の前に傷のない者だからである。(黙示録 14:4,5)

贖罪

パート II—贖罪の犠牲における大祭司としての働き (II)

III. 天の聖所で奉仕しておられるキリスト

わたしたちは大贖罪の日におり、現在〔1882 年〕天の聖所で進行している神の民のためのキリストの聖なる働きが、わたしたちの不断の研究主題となるべきである。(教会への証 5 卷 520)

ああ、すべての人が尊い救い主をありのままに、すなわち救い主として見る事ができればよいのだが。このお方のみ手がわたしたちの目からこのお方の栄光を隠している覆いをわきに引いてくださるように。それはこのお方がご自分の高く聖なる場所におられるのを示してくれる。わたしたちは何を見るであろうか。沈黙や不活動の立場にはおられないわたしたちの救い主である。このお方は天の知的存在者たち、ケルビムやセラビム、千々万々の御使たちに囲まれておられる。これらの天の存在者たちには、ほかのすべてにまさる一つの対象、すなわち彼らが非常に関心を持っているものがある。すなわち、墮落した世におけるこのお方の教会である。(手紙 89c, 1897 年)

このお方はご自分の聖なる場所で、孤独と威厳の地位におられるのではなく、自分たちの主人の命令をなそうと待っている千々万々の天の存在者たちに囲まれておられる。そして、このお方は彼らに、神に自分の信頼をおく最も弱い聖徒のために行って働くようにとお命じになる。高い者にも低い者にも、富む者にも貧しい者にも、同じ助けが備えられている。(手紙 134, 1899 年)

あなたの感化力を神の戒めに反対する立場においてはならない。この律法は、まさに天の宮でエホバが記されたものである。人は下のこの地上でその写しを踏みにじるかもしれないが、原本は天で神の契約の箱の中に保管されている。そしてこの契約の箱のふたには、すなわち律法のすぐ上は、恵みの御座である。イエスはちょうどそこに人のために仲保なさるためにその箱の前に立っておられる。(原稿 6a, 1886 年 (SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 1 卷 1109))

わたしたちはみな聖所の主題を思いにとどめておく必要がある。神は人の唇か

ら出るがやがやした言葉が、わたしたちの民の信仰、すなわち天に聖所があり、この聖所の型がかつてこの地上に建設されたという真理を信じる信仰を減じるようなことを禁じられる。神はご自分の民がこの型に親しみ、神がすべてのすべてでいられられるこの天の聖所を、いつも思いにとどめて置くように望んでおられる。(手紙 233, 1904 年)

イエスは、わたしたちの弁護者、わたしたちの大祭司、わたしたちの仲保者であられる。わたしたちの立場は、贖罪の日におけるイスラエルの立場と同じである。わたしたちの大祭司がいま嘆願し、恵みの御座に贖罪の血を降り注いでいる場所を象徴していた至聖所に、大祭司が入ったとき、あがないの供え物が外で捧げられることはなかった。祭司が神にとりなしをしている間、すべての人の心は不法の許しのために嘆願しつつ、悔悟のうちに頭をたれているのであった。(サイン・オブ・タイムズ 1899 年 6 月 28 日)

IV. 祭司の第二段階は裁きを包含している

このお方はご自分の祭司職の第一段階を墮落した人類のために十字架上で死なれることによって成し遂げられた。このお方はいまや悔い改めて信じる罪人の裁判を御父の前に嘆願し、神にご自分の民の捧げ物を差し出すことによって、もう一つの段階を果たしておられる。人性を取り、そしてこの性質において、敵の誘惑に勝利し、神聖な完全さをもたれたことにより、このお方に世の裁きが委ねられた。各人の裁判はこのお方の前に調査に持ち出される。このお方はすべての人にそのしわざに応じて示し、裁きを宣告される。(原稿 42, 1901 年)

V. 永続的なとりなし

イスラエルの祈りと共にのぼった香は、キリストの功績と仲保、キリストの完全な義をあらわしている。これは信仰によって神の民のものとされる。そして、ただこれによってのみ、罪深い人間の礼拝が神に受け入れられる。至聖所のとぼりの前には、絶えずとりなしの行なわれる祭壇があり、聖所の前には常供の贖いの祭壇があった。血と香によって、人間は神に近づくことができた—これらは、偉大な仲保者キリストをさし示す象徴であった。この仲保者を通して、罪人は主に

近づくことができ、また、このキリストを通してはじめて、あわれみと救いが悔い改めて信じる魂に与えられるのである。(人類のあけぼの上巻 416)

ユダヤの祭司職の奉仕において、わたしたちは絶えず、キリストの犠牲ととりなしを思い起こされる。今日キリストに来る者はみな、このお方の功績は、自分たちの罪を悔い改め、許しと憐れみと恵みを受ける人々の祈りと共に混ぜ合わされる香であることを覚えているべきである。わたしたちはキリストのとりなしを絶えず必要としている。(原稿 14, 1901 年)

VI. 仲保者でありかつ裁き主であられるキリスト

キリストは個人的な経験によって、アダムの墮落以来、絶えず継続している戦いを知っておられる。そうであれば、このお方はなんと裁き主にふさわしいお方であろう。人の子であられるイエスに、すべての裁きが委ねられている。神と人との間に一人の仲保者がおられる。このお方によってのみ、わたしたちは天の王国へ入ることができる。このお方は道であり、真理であり、命であられる。このお方の判決に対する控訴はない。このお方はちとせの岩であり、すべての試みられ誘惑されている魂が確かなかくれが見出すことのできるために裂かれた岩であられる。(ビュー・アンド・ハルド 1901 年 3 月 12 日)

「父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである」。「子は人の子であるから、子にさばきを行う権威をお与えになった」。このお方に追加で与えられた人性のうちに、キリストの任命の理由がある。神はさばきのことはすべて子にゆだねられた。なぜなら、反駁の余地なく、このお方は肉において現われた神であられるからである。

神は人性において苦しむ者の君であられるお方が全世界の裁き主となることをお定めになった。人類を永遠の死から救うために、天の宮から来られたお方、人々がさげすみ、拒み、サタンに刺激された人間があらんかぎりの侮辱を積み上げたお方、地上の法廷の前で糾弾に服し、十字架上の屈辱的な死に苦しまれたお方—このお方だけが報いもしくは刑罰の判決を下されるのである。この地上で十字架の苦悩と屈辱に服されたお方は、神の会議において、完全な代償を受け、全宇宙に聖徒たちの王として認められ、御座へと昇られる。このお方は救いの働きを引き受けられ、墮落していない諸世界の前に、また天の家族の前に、ご自

分の始められた働きを、このお方は完成することがおできになることを示された。人の悔い改めの恵みをお与えになるのはキリストであられる。このお方の功績は、神の家族を構成することになる一人びとりの魂のために、御父によって受け入れられる。

最終的な刑罰と報いの日に、聖徒も罪人も十字架につけられたお方をすべての生ける者の裁き主として認めるようになる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1898 年 11 月 22 日)

VII. キリストの祭司職の仲保のすばらしい結果

キリストのとりなしは、神のみ座につなぐ黄金の鎖である。このお方はご自分の犠牲の功績を祈りにかえられた。イエスは祈られる。そして祈りによって成功される。(原稿 8, 1892 年)

わたしたちの仲保者として、キリストは絶えず働かれる。人がご自分を受け入れようと拒もうと、このお方は彼らのために熱心に働かれる。このお方は彼らに命と光をお与えになり、ご自分の御霊によって、彼らをサタンの奉仕から勝ち取ろうと奮闘される。そして、救い主が働かれている間、サタンもあらゆる不義の欺きと、たゆまぬ精力をもって働くのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1901 年 3 月 12 日)

この救い主は仲保者となり、いと高きお方とその民の間に立たれるのであった。この備えを通して、罪深い罪人が、他の仲保を通して神へ近づく道を見出す道が開かれた。罪人は自分の罪を身に負ったまま、またそのとき自分のうちに所有しているものより大きな功績を持たずに、自ら御許に出ることはできなかった。キリストだけが、神聖な律法の要求に等しい捧げ物を捧げることによって、道を開くことがおできになった。このお方は完全で、罪によって汚されていなかった。このお方にはしみや傷がなかった。(レビュー・アンド・ヘラルド 1872 年 12 月 17 日)

キリストは真の幕屋の仲保者、すなわちこのお方を個人的な救い主として信じるすべての人の大祭司であられる。そしてこのお方の務めを他の者が引き受けることはできない。このお方は教会の大祭司であり、このお方には他の者が執り行うことのできない働きがある。このお方の恵みによって、このお方はすべての人を不法から守ることがおできになるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1900 年 2 月 14 日)

キリストの贖罪ととりなしを信じる信仰は、戦う教会のうちにあってわたしたちに押し寄せる誘惑のただ中で確固として動かされないようにわたしたちを守る。(レビュー・アンド・ヘアルド 1896 年 6 月 9 日)

偉大な贖いの計画は、この終わりの時代のための終了の働きにおいてあらわされている通りに、厳密に吟味されるべきである。上にある聖所に関する光景は、すべての人の思いと心にしっかりとした印象を残し、ほかの人にその印象を与えることができるべきである。すべての人は、上になる聖所で進行している贖罪の働きに関してもっと知的になる必要がある。この壮大な真理を見て、理解するとき、それをつかむ者は、人々に神の大いなる日に立つ準備をさせるためにキリストと調和して働く。そして彼らの努力は成功するのである。(教会への証 5 巻 575)

キリストの祭司としてのとりなしは、いま上なる聖所でわたしたちのために進行している。しかし、わたしたちの大祭司が御父の前にご自身の血を提示し、ご自分の契約がその犠牲の報いとして包含している一切の恵みを、ご自分を個人的な救い主として受け入れる罪人のために要求しておられることを本当に理解している人はなんとわずかなことであろう。このお方はこの犠牲によって、このお方が自分たちのために生きてとりなしをしてくださっていることを知り、このお方によって神の許へ来るすべての人を、最高にまで救うことがおできになる。(原稿 92, 1899 年)

幕の内におられる大祭司としてキリストはカルバリーを不朽のものとしたので、このお方は神に対して生きておられるにもかかわらず、罪に対して絶えず死んでおられるので、こうしてもしだれでも罪を犯すものがあれば、その人は御父のもとに弁護人がいるのである。このお方は驚くべき力と栄光のうちに天使たちの雲に囲まれて墓からよみがえられた。すなわち、神格と人性の結合されたお方であった。このお方はサタンが自分の合法的な領域として支配することを要求していた世界を御手につかんでおられた。そしてご自分の命を与えることにおいてなされたそのすばらしい働きによって、全人類を神への恩寵へ回復された。勝利の歌声が諸世界にわたってこだまを繰り返した。御使も大天使も、ケルビムもセラピムもこの驚くべき偉業に勝利の歌をうたった。(原稿 t 50, 1900 年)

今は贖罪の大いなる日でであり、わたしたちの弁護人は、わたしたちの仲保者として御父の前に立っておられる。わたしたちは自己義の衣を自分たちの身にまきつける代わりに、日ごとに神の御前に自らをへりくだらせ、自分自身の個人的な罪を告白し、自分の不法の許しを求め、自分の魂が神聖なかたちを反映す

るために準備する働きにおいてキリストに協力しているところを見出されるべきである。(原稿 168, 1898 年 (SDA バイブル・コメンタリ [E.G. ホット・コメント] 7 巻, ヘブル 10:19-21 のコメンタリ))

わたしたちの仲保者として、イエスはこの贖いの働きを完全に成し遂げることがおできになる。しかし、ああ、なんとという代価であろう! 神の御子は、罪人が悔い改めと信仰を通して、彼の個人的な功績は何も寄与していないキリストの義によって義認を受けることができるために、ご自分は何のかかわりもない罪のために責めを受けられた。地上に生きた一人びとりの罪が、キリストの上に置かれ、だれ一人としてサタンとの戦いにおいて敗北者となる必要がないという事実を証した。このお方によって神の許へくるすべての人を最高にまで救うお方の力を、だれでもつかむことができることができるように備えがなされた。

キリストはご自分に人間の不法の罪を引き受けられ、一方このお方は信仰によってご自分を受け入れ、神への忠誠に帰るすべての人の上に、ご自身のしみのない義をかけられる。(ビュー・アンド・ワールド 1899 年 5 月 23 日)

このお方は御父の前にご自身の功績という香炉を持っておられる。そこには地上の墮落のしみは何もない。このお方はご自分の民の祈り、賛美、そして告白をこの香炉の中に集められる。そしてこれらと共に、このお方はご自身のしみのない義を置かれる。それから、キリストの贖いの功績にかおる香が、神の御前にあますことなく完全に受け入れられるものとして立ちのぼる。それから、恵み深い応答がもどってくる。……この義の芳香は恵みの御座の周りの雲のように立ちのぼるのである。(原稿 50, 1900 年 (SDA バイブル・コメンタリ [E.G. ホット・コメント] 6 巻, ローマ 8:26, 34 のコメンタリ))

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By



10月 「精錬された教会」

神の御心に愛しいもの

「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまいないようなことがあろうか。たとえ彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある。」(イザヤ 49:15, 16)

キリストの教会は、このお方の御目に非常に尊い。それはこのお方の宝石が入っている箱であり、その羊の群れをかこむ囲いである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホルト・コメント] 6 巻 1118)

キリストは「教会を愛して、そのためにご自身をささげられた」(エペソ 5:25)。それは、このお方の血によって買われたものである。神の聖なる御子が、七つの黄金の燭台の間を歩いておられるのが見える。イエスご自身がこれらの燃えている燭台に油を注いでおられる。炎を灯されるのはこのお方である。「この言に命があった。そして、この命は人の光であった」(ヨハネ 1:4)。燭台にしる、教会にしる、それ自身が光を放っているのではない。その光はすべてキリストから放射しているのである。……全能である主なる神と小羊がその光なのである。(同上)

時に主はご自分の教会の危機と、敵が教会に与えた被害を忘れたかのように思われることがある。しかし、神はお忘れになったのではない。この世において、教会ほど神にとって大切なものはない。世俗的な政策によって教会の記録が腐敗することは、神のみこころではない。神はご自分の民が、サタンの誘惑に打ち負かされるままに放置されない。(国と指導者下巻 195)

神は、母親でさえ自分の子供のことを忘れるかもしれないが、「わたしは、あなたを忘れることはない」と宣言なさる。……神は、もっとも優しい気づかいをもってご自分の子らのことを思い、ご自身の保護の下にある子らを決して忘れないようにと、ご自分のみ前に覚えの書を置いておられる。

「すべての人間の絆は消滅するかもしれない

友は友を裏切り、

母は己が子を抱くことをやめ、

ついに天と地は動かされる。

しかし、エホバの愛は永遠に変わることがない。」

(教会への証 4 巻 329, 330)

逃れの町

「主はシオンを選び、それをご自身のすみかにしようと望んで言われた、『これはとこしえにわが安息所である。わたしはこれを望んだゆえ、ここに住む』。」(詩篇132:13, 14)

幾世紀にもわたる迫害、闘争、暗黒の中にあつて、神は教会を支えてくれた。神は教会に落ちかかってくるどんな暗雲に対しても備えをし、みわざを妨害するために起るどんな反対勢力も予見された。すべての事は神の予告通りに起った。神は教会を見捨てておかれず、起るべきことを預言のことで明らかにされた。そして預言者が御霊に感じて預言した事は、成就した。神のすべての目的は達成される。神の律法は御座につながっていて、どんな悪の力も、それを滅ぼすことはできない。真理は神の靈感を受け、神に守られている。それはすべての反対に勝利する。

霊的暗黒の時代に神の教会は、山の上にある町のようなものであつた。各時代にわたり、各世代を通じて天の高潔な教えは教会の中で明らかになってきた。……教会は神の恵みの舞台であり、そこで神は人々の心を変えろる力をあらわすことを、およそこびになるのである。(患難から栄光へ上巻 3, 4)

教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなつてくださった神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをお持ちになっていた。彼らは、彼らが生きた世代に忠実なあかしを立ててきたのである。これらの見張りびとたちは警告の使命を伝えた。そして、彼らが自分のよろいをぬぐように命じられたとき、他の人々がその仕事を受け継いだ。神はこうしたあかしびとを神との誓約関係に置かれて、地上の教会を天の教会と結ばれたのである。神はご自分の教会に仕えさせるために、天使たちをおつかわしになった。そして、黄泉の力は神の民に打ち勝つことができなかった。(同上)

神は、神の子供たちを限りなく愛しておられるのである。神がこの地上の教会ほどに、愛を注がれるものは他にない。(キリストの実物教訓 147)

神はご自分の教会を守ってくださる

「あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない。」(イザヤ 43:2)

神は地上に教会を持っておられる。それは神によって選ばれた民であり、このお方の律法を守る者たちである。神は、迷い出た分派、すなわちそこかしこにいる一人ひとりを導いておられるのではなく、一つの民を導いておられるのである。(牧師への証 61)

働きが成功しないのではないかと疑い、恐れる必要はない。神がその働きの先頭であられ、このお方は万事を整えてくださる。もし働きの先頭で事態を調整する必要があるなら、神ご自身が介入され、すべての悪を正すために働いてくださる。神がご自分の民を乗せた高潔な船を、港まで安全に運んでくださることを信じる信仰を持とう。

何年も前に、わたしがメイン州のポートランドからボストンへ船旅をしたとき、嵐がわたしたちを襲い、大波がわたしたちをあちこちに激しく打ちつけた。シャンデリアは落ち、旅行用の大かばんが、ボールのように、船室の端から端へと転がっていった。乗客は恐れ、多くの者は、死ぬのではないかと恐れて、悲鳴をあげていた。

しばらくのち、操縦士が甲板にきた。船長は舵をとっている操縦士のそばに立ち、船が向かっている方向について不安を述べた。操縦士は、船長に、「操縦してみますか」と尋ねた。船長は自分の経験不足を知っていたので、その心構えはできていなかった。それから数人の乗客が不安になり、操縦士が船を岩に乗り上げてしまうのではないかと不安だと言いだした。「あなたが操縦しますか」と操縦士が尋ねたが、彼らは、自分が舵を操ることができないことがわかっていった。

働きが危機に直面していると思うときに、「主よ、舵をとってください。この難局を通り抜けさせてください。わたしたちを港へ安全に導いてください」と祈りなさい。わたしたちには、主がわたしたちを勝利のうちに導いてくださることを信じる信仰を持つ理由があるのではないだろうか。……

あなたは、自分の有限な知性で神のみ摂理の働きを理解することはできない。神ご自身のみ働きは、このお方にお任せしなさい。(ビュー・アンド・ヘラルド 1892年9月20日)

裁きの時のメッセージ

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。」」（黙示録 14:6, 7）

聖書の権威に疑惑を抱きながらも、なお真理を知りたいと心から望んでいた、高潔で誠実な一農夫が、キリスト再臨の宣布において指導的な役割を果たすために、神によって特に選ばれた。（各時代の大争闘下巻 1）

神は、天使をつかわして……彼に預言の研究をするように導かれた。……

彼は、預言の研究をしているうちに、地の住民たちが、世界歴史の最後の時代に臨んでいるのを悟ったが、人々は、まだ、それを知らないでいた。……神は……彼に農園を捨てるように召されたのである。ウィリアム・ミラーは、恐れおのきながら、神の国の神秘を人々に語り始めた。そして、預言を解き進めて、聴衆にキリストの再臨を示した。……

多くの人々が、ウィリアム・ミラーの伝えた真理を受け入れた。そして、エリヤの霊と力とをもってメッセージを宣言する神のしもべたちが起った。……そして、来るべき怒りから逃れるようにという厳粛な警告が発せられたときに、諸教会に連なっていた多くの人々が、その癒しのメッセージを受け入れた。彼らは、自分たちの背信を認めて、悔い改めの激しい涙と、魂の深刻な苦悩とによって、神の前に謙虚になった。（初代文集 378, 379, 384, 385）

罪人の改心とキリスト者の霊的生命のリバイバルという両面における主の特別な祝福は、……そのメッセージが神からのものであることをあかしていた。（各時代の争闘下巻 95）

信者たちは、明白に……1844年に主を待望する理由を述べた。反対者たちは、この強力な理由に対して反論することができなかった。（初代文集 390）

「神のさばきの時がきた」という告知は、人類の救いのためのキリストの務めの最後の働きを指している。それは、救い主のとりなしが終わり、このお方がご自分の民を迎えるために地上に帰られるまで宣布しなければならない真理を伝えるものである。（各時代の争闘下巻 154）

暗闇を貫く光

「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。」（ヘブル 10:35, 36）

聖所問題が、1844 年の失望の秘密を解くかぎであつた。それは、互いに関連し調和する真理の全体系を明らかにし、神のみ手が大再臨運動を導いてきたことを示し……た。（各時代の斗争闘下巻 138）

当時再臨信徒たちは、……地上、あるいはその一部が、聖所であると思っていた。そして聖所の清めとは、最後の大いなる日の火によって地が清められることであり、これはキリストの再臨の時に起ると、彼らは理解していた。そこで、1844 年にキリストが地上に帰られると結論したのであつた。

しかし、定められた時は過ぎ、主は来られなかった。信徒たちは、神の言葉に誤りが無いことを知っていた。自分たちの預言の解釈にまちがいがあつたに違いない。しかし、それではどこがまちがっていたのであろうか。……

研究の結果、彼らは、地上が聖所であるという一般の見解を支持する証拠が、聖書にないことを知った。しかし、聖書には、聖所とその本質、場所、奉仕などの問題が十分に説明されているのを彼らは見いだした。（同上 119 ～ 122）

預言の言葉の光に従った者たちは、キリストは、2300 日が 1844 年に終了した時に、この地上に来られるのではなくて、再臨に備えて贖いの最後の働きをするために、天の聖所の至聖所に入られたのだということを知った。……

今彼らは、至聖所の中に、再び主を見た。それは、彼らのあわれみに満ちた大祭司であり、まもなく彼らの王として、救出者として来られるかたであつた。（同上 137, 138）

彼らは信仰によって彼に従っていき、教会の最後の働きをも知るに至った。彼らは、第一と第二天使のメッセージを、いっそう明瞭に理解した。そして、黙示録 14 章の第三天使の厳粛な警告を受けて、それを世に伝えるよう準備させられた。（同上 150）

バビロンは倒れた

「また、ほかの第二の御使が続いてきて言った。『倒れた、大いなるバビロンは倒れた。その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒をあらゆる国民に飲ませた者。』
(黙示録 14:8)

黙示録 14 章の第二天使のメッセージは、最初、1844 年の夏、宣べ伝えられた。そして、それは当時の米国の諸教会に直接当てはまるものであった。米国においては、審判の警告が最も広く宣言されたにもかかわらず、大部分の教会はそれを拒否して、急速に墮落してしまった。しかし、第二天使のメッセージは、1844 年に完全な成就を見たのではなかった。その時、教会は、再臨のメッセージの光を拒否したために、道徳的墮落を経験したのであったが、しかしその墮落は、全面的なものではなかった。諸教会は現代に対する特別な真理を拒否しつづけてきたために、ますますひどく墮落してしまった。しかし、「バビロンは倒れた。……その不品行に対する激しい怒りのぶどう酒をあらゆる国民に飲ませた者」と言うまでには、まだなっていない。彼女はまだあらゆる国民に飲ませてはいない。……背教の活動は、まだその頂点に達していない。

聖書は、主の再臨前に、サタンが「あらゆる偽りの力と、しるしと不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを」もって働き、「自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれな」い者は、「偽りを信じるように、迷わす力」を受けるに至る、と言っている（テサロニケ第二 2:9～11）。こうした状態になって、教会と世俗との結合がキリスト教国全体において完全に行われるときに、初めてバビロンの墮落は完全なものとなる。この変化は徐々に行われる。黙示録 14:8 の全面的な成就は、まだ将来のことである。

バビロンを構成する諸教会は、霊的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別なメッセージをまだ悟っていない人々が多くいる。（各時代の大争闘下巻 91, 92）

最後の厳粛な警告

「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み』」（黙示録 14:9, 10）

イエスは、聖所における奉仕を終わり、至聖所にはいって、神の律法を納めた箱の前に立たれたときに、世界に対する第三のメッセージをたずさえたもう一人の力強い天使を、お送りになった。……このメッセージは、神の民の前にある試みと苦悩の時を彼らに示して、彼らに用心させるためのものであった。（初代文集 414）

この象徴〔獣〕は、たいていのプロテスタントが信じてきたように、……法王権を表わしている。（各時代の大争闘下巻 158）

「獣の像」は、プロテスタント諸教会が自分たちの教義を強制するために公権力の助けを求めるときに起きてくる背教のプロテスタント教会を表わしている。……（同上 165）

カトリックの著者たちも、カトリック教会の権威のしるしとして、「安息日を日曜日に変更したという、まさにその行為」を挙げ……たとするならば、安息日の変更は、ローマ教会の権威のしるし、あるいは刻印、すなわち「獣の刻印」でなくして何であろうか。（同上 169）

日曜日遵守は、人々にこの偶像の安息日を守るよう強制する布告が出されるまでは、まだ獣の印ではない。（SDA バイブル・コメント [E.G. 柯什・コメント] 7 巻 977）

こうして、この問題が人々の前に明らかに示されて、神の戒めと人間の戒めのどちらかを選ばねばならなくなったとき、それでも神の戒めを犯し続ける人々が、「獣の刻印」を受けるのである。（各時代の大争闘下巻 171）

非常に重大であるために、中空を飛ぶ聖天使たちによって宣べ伝えられたと表現されているほど重要な警告を、神が人々にお送りになる時、神は理性を持つ者がすべてこのメッセージに耳を傾けるように求めておられる。（同上 360）

だれが神の印を受けるか

「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、『わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。』」（黙示録 7:2, 3）

生ける神の印は、品性においてキリストに似ている者だけに押される。（SDA バイブル・コメント [E.G. 初版・コメント] 7 巻 970）

蠟が印の跡を保っているように、魂は神の御霊の跡を保ち、キリストのみかたちを持ち続ける。（同上）

品性を神の品性に似たものにかたちづくるのは、神の戒めの原則への従順である。（神のむすこ娘たち 52）

神の律法の印は第四条に見出される。十戒のうちこれだけが、律法を与えてくださったお方の名と称号を明らかにしている。この第四条は、このお方こそが、天と地の創造主であることを宣言し、それゆえに地のすべてのものを超越した崇敬と礼拝を求める権利がおりになることを示している。この戒めを別にして、神の権威によって律法が与えられたということを示すものは十戒の中にない。（サイン・オブ・タイムズ 1910 年 6 月 14 日）

イスラエル人は、自分たちが神の所有であることを示すため、戸に血のしるしを塗った。そのように今日、神の子らは、神が命じられたしるしを身に帯びるのである。彼らは、自分を神の聖なる律法に調和する者とする。全般的な滅びから民を守るために、ヘブル人の住まいの戸に一つのしるしがつけられたのとちょうど同じように、神の民一人ひとりに一つのしるしがつけられる。神は、「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを彼らに知らせるためである」と宣言なさる（エゼキエル 20:12）。（SDA バイブル・コメント [E.G. 初版・コメント] 7 巻 968, 969）

神の民がひたいに印を押されるや否や—それは、目に見える印やしるしではなく、知的にも霊的に真理に定着し、動かされないものとなることであるが一神の民が印を受け、ふるいのための備えができるとすぐに、そのふるいがおとずれる。実に、それはすでに始まっており、神の裁きは今や地の上に臨んでおり、……わたしたちは何が来ようとしているのかを知ることができる。（同上 4 巻 1161）

教会に対する神の理想

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」(エペソ 5:27)

主なる神はねたむ神であられるが、なおこの時代のご自分の民の罪と、とがとを長く忍んでおられる。もし神の民がこのお方の勧告のうちに歩み、神の働きが前進していたなら、この地上に住んでいるすべての人々に真理のメッセージが伝えられていたであろう。……しかし昔のイスラエル人のように、人々が不従順で、感謝をせず、聖なるものでないため、大いなる声で宣布される最後の憐れみのメッセージをすべての者が聞くことができるように時が延ばされている。主の働きは妨げられ、印する時は遅れている。多くの者は真理を聞いたことがない。しかし主は彼らが聞いて改心する機会をお与えになるのである。(手紙 1897 年 10 月 6 日)

あなたはこの大いなる準備の働きの時に……何をしているのであろうか。世と一致している者は世の型を受け、獣の刻印を受ける用意をしている。自己に信頼せず、神のみ前にへりくだり、真理に従うことによって自分の魂を清めている者、このような人々は、天の型を受け、ひたいに神の印を受ける用意をしているのである。布告が發布され、印を押されると、彼らの品性は永遠に、純潔でしみのないままである。今は準備の時である。神の印は清くない男女には決して押されない。この印は野心的な、世を愛する男女のひたいには押されない。誤りを語る舌や、欺く心の男女のひたいにも押されない。この印を受ける者はすべて、神のみ前にしみのない者、すなわち天のための候補者でなければならない。(教会への証 5 巻 216)

すべての魂は一人ひとり、生ける神の印を受けたいと望むなら、主のみ言葉を聞き、それを厳密に行わなければならない。もし人が神の家族の中に自分の場所を得たいのであれば、行きあたりばったりの信仰生活であってはならない。(E.L.G. 初稿 1899 年 20)

四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。(初代文集 130)

教会の試練

「それゆえに、天とその中に住む者たちよ、大いに喜べ。しかし、地と海よ、おまえたちはわざわいである。悪魔が、自分の時間が短いを知り、激しい怒りをもって、おまえたちのところに下ってきたからである。」(黙示録 12:12)

神の戒めとイエスの信仰を守る者は、龍とその手下の怒りを感じる。サタンは、世を自分の臣下であると思っており、背教した教会の支配権を得ている。しかしここに彼の主権に抵抗している小さなグループがある。もし彼が彼らを地上から抹殺することができるなら、彼の勝利は完全なものとなる。彼は、イスラエルを滅ぼすために異教の国々に影響を及ぼしたように、近い将来、神の民を滅ぼすために地上の悪い権力をわきたたせる。……彼らの唯一の希望は神の憐れみの内にあり、唯一の防御は祈りである。(教会への証 5 巻 472, 473)

エステルの時代に神の民に訪れたつらい経験は、ただその時代だけのものではなかった。啓示者ヨハネは、時の終末に至るまでの各時代を見下ろして言った。「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、たたかいをいどむために、出て行った」と宣言した(黙示録 12:17)。今日地上に住んでいるある者は、これらのみ言葉が成就するのを見るようになる。(国と指導者下巻 208)

自分の時間が短くなるにつれてサタンの怒りは増し、彼の欺きと破壊の働きは、悩みの時に最高潮に達する。

超自然的な恐るべき光景が、奇跡を働く悪魔の力のしるしとして、まもなく天に現れるであろう。悪霊たちは地の王たちのところと全世界とに出て行って、彼らを欺瞞の中に閉じ込め、天の統治に対するサタンの最後の闘争に加わるように駆り立てる。これらの手先によって、為政者も国民も一様に欺かれる。(各時代の争闘下巻 398)

真理を求める者、真理を愛してそれに従うことのできる者は、彼(サタン)の敵意を起こさせ、怒りをかきたてる。彼らがイエスの近くに続ける間は、彼は決して彼らを弱めることはできない。(教会への証 2 巻 105)

エリヤと現代の教会

「見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたが見につかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである。」(マラキ 4:5, 6)

マラキ書の最後はキリストの初臨と再臨に先立って行われるべき働きに関する預言である。(ザン・ウォッチマン 1905 年 3 月 21 日)

キリストの再臨のために道を備えるべき人々は、信仰深いエリヤによって表されている。それはキリストの初臨に道を備えるため、ヨハネがエリヤの霊をもって来たのと同様である。(教会への証 3 卷 62)

わたしたちのメッセージは、ヨハネのメッセージ同様、率直なものでなければならない。彼は、王たちをその不義のゆえに譴責した。命が危険にさらされたにもかかわらず、彼は真理を語る口調を弱めようとしなかった。……

ほとんどすべての者が背教しているこの時代に、神はエリヤの力と霊をもって、ご自分の律法を宣布する使命者を召しておられる。バプテスマのヨハネが、キリストの初臨に対して人々を備えさせるために、人々の注目を十戒に呼び求めたように、わたしたちは、はっきりした声で「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである」というメッセージを発しなければならない。預言者エリヤとバプテスマのヨハネを特徴づけた熱心さをもって、わたしたちはキリストの再臨の道を備えるために奮闘すべきである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 4 卷 1184)

神のさばきの時がきた。そして、地上の神の教会員には、今にも永遠に滅ぶうせようとしている人々に、警告の言葉を発する厳粛な責任が負わされている。(国と指導者下巻 317)

すべての者は働きにおいて何かができる。魂の救いのために、熱心に私心なく働かなければ、だれも神のみ前に罪なしとされることはない。(教会への証 5 卷 395)

あなたの義務を他の者に委譲することはできない。あなたの働きはあなた以外にだれもすることはできない。もしあなたがあなたの光を差し控えるなら、あなたの怠慢のゆえにだれかが暗黒に残されてしまうのである。(同上 464)

主は、ご自身の偉大な計画の中に一人びとりのための場所を用意しておられる。(同上 9 卷 37)

安息日を遵守する教会

「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」(黙示録 12:17)

黙示録 12 章には、従順な者と不従順な者とのあいだの大争闘が表わされている。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 姉妹・コメント] 7 巻 974)

従順のしるしは、第四条の安息日遵守である。(同上 981)

安息日は現代のためのテストである。霊とまこととをもって第四条の戒めに従うことで、人々は十戒の戒めすべてに従うようになる。この戒めを全うするためには、人は神を最高に愛し、このお方が造られたすべての被造物に対して愛を働かせなければならない。(サインズ・オブ・タイムズ 1896 年 2 月 13 日)

聖なる第七日目を守るがゆえに、神の民が迫害の手を感じる時が近づいている。……不法の者、すなわち時と律法とを変えようと思い、常に神の民を圧迫してきた者は、週の第一日の遵守を強要する法律を作らせるに至る。しかし、神の民は神の側に堅く立つべきである。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 姉妹・コメント] 7 巻 975)

だれも神の律法があなどられるからといって、誘惑に屈したり、この律法への忠誠をいささかでも減じたりしてはならない。なぜなら、これこそ、わたしたちが全身全霊を込めて祈り、「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」(詩篇 119:126) と声にすべきことだからである。それゆえ、わたしは、わたしの忠誠によって神が最も栄光を受け、最も尊ばれるときに、全世界的な侮辱のゆえに、裏切り者になったりはしない。

セブンスデーアドベンチストは、自分たちの能力と力を尽くして主の側に立つべき時に、自分の献身をゆるめるのであろうか。断固とした証、気高く掲げるような証が彼らの唇から出るべき時ではないだろうか。「それゆえわたしは金よりも、純金よりもまさってあなたの戒めを愛します」(詩篇 119:127)。神の律法が最も嘲られ、最も侮られるとき、その時こそ、真にキリストに従うすべての者は、……ひとたび聖徒に伝えられた信仰のためにひるむことなく立つべき時である。(SDA バイブル・コメンタリ [E.G. 姉妹・コメント] 7 巻 981, 982)

霊の賜物

「兄弟たちよ。霊の賜物については、次のことを知らずにいてもらいたくない。……各自が御霊の現れを賜わっているのは、全体の益になるためである。」(コリント第一 12:1, 7)

パウロもまた、聖霊の賜物とその力のあらわれが教会に与えられた……「……わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さまで至」らせるため……と宣言している(エペソ 4:12, 13)。(各時代の犬争闘序文 5, 6)

だれもが同じ賜物を受けるわけではないが、主のしもべにはだれにでも何かの霊の賜物が約束されているのである。(キリストの実物教訓 301)

主はあらゆる種類の熟練した働き人を必要としておられる。「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」るためである(エペソ 4:11, 12)。(教会への証 6 巻 291)

神の大いなる日の光景と直接関連して、主は、預言者ヨエルによって神の霊の特別なあらわれを約束しておられる。(ヨエル 2:28)。この預言はペンテコステの日に聖霊が下ったことによって、部分的な成就を見た。しかしそれは、福音の最後の働きに伴う神の恵みのあらわれにおいて、完全に成就するのである。……

今日、神の恵みと力が特別にさずけられることは、使徒時代に劣らず必要なのである。(各時代の犬争闘序文 6, 7)

ペンテコステの日に救いのみ言葉を聞いた人々にお授けになったように、神は、今日の男女にも上からの力を授けて下さる。今このとき、神の御霊と恵みは、それらを必要とし、み言葉どおりにこのお方を信じるすべての者のためである。(教会への証 8 巻 20)

たまものは、すでに、キリストにあつてわたしたちのものであるが、それを実際に受けるかは、わたしたちが神の御霊を受けるか否かにかかっている。……

もし彼らがキリストと結合し、聖霊の賜物を所有しているならば、このお方の弟子の中で最も貧しく最も無知な者が人々の心に触れる能力をもつことができる。神は彼らを用いて、宇宙間の最高の感化を及ぼす器となさるのである。(キリストの実物教訓 302)

今の時代における預言者の声

「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。」(ヨエル 2:28)

神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみことばについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の基準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである。……

しかし、神がみことばを通してみことを人間に啓示されたからといって、聖霊の絶えざる臨在とみちびきが不要になったわけではない。……

旧新約聖書が与えられつつあった時代に、聖霊は、聖書の中にあらわされるはずの啓示とは別に、個々人の心に光を与えることをやめなかった。……その語ったことばが記録されていない各時代の預言者の名もあげられている。同様に、聖書が完成されてからも、聖霊は、依然としてその働きをつづけ、神の民を照らし、警告し、慰めるのであった。(各時代の争闘序文 3～5)

神は……「終わりの時に」幻を与えると約束された。それは信仰の新しい基準としてではなくて、神の民の慰めと、聖書の真理を離れて誤りに陥る人々を正すためである。(初代文集 160)

神の霊がわたしの心に、神のみことばの大いなる真理を開き、過去と未来の光景を示されたとき、わたしは、……自分にこのように示されたことを他の人々に知らせよう命じられた。(各時代の争闘序文 9)

世俗的な安全の中で眠るようにとあなたを寝かしつけて喜ぶ者がいるが、わたしには別の働きがある。わたしのメッセージはあなたに警告するものであり、あなたに自分の生活を改革し、宇宙の神に対する反逆をやめるように命じるためである。神の御言を受け入れ、あなたが御言と調和しているかどうかを確かめなさい。あなたの品性は天の調査の吟味に耐え得るようなものであろうか。(ビュー・アット・ヘヴル 1911 年 6 月 22 日)

「恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる」

「恐れてはならない。わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」（イザヤ 41:10）

わたしに最初の幻が与えられたのは、1844 年のその時が過ぎてまもなくであった。わたしは、キリストにあつて心がわたしと堅く結びついている姉妹を訪問していた。わたしたち 5 人は、全員女性であつたが、家庭の祭壇に静かにひざまずいていた。わたしたちが祈っていたとき、かつて一度も感じたことがないほど、神の力がわたしの上に臨んだ。わたしは光に囲まれ、地上からどんどん高く上っているようであつた。わたしは世にいる再臨信徒を探そうと振り向いたが、彼らを見つけることができなかった。その時声が聞こえた。「もう一度見なさい。少し高いところを見なさい」。これを聞いて目を上げると、世の上に敷かれた狭くて細い道を見た。この道を、再臨信徒は都に向かつて進んでいた。……

わたしはこの幻を信徒たちに話し、……彼らは、それが神からのものであることを完全に信じた。主の御霊が証に伴い、永遠の厳粛さがわたしたちの上に臨んだ。わたしは、神がご自分の民に光を与える器として、非常に若く病弱な自分を選ばれたことに、言いあらわしようのない畏怖に満たされた。……

最初の幻の後、すぐに続いた二度目の幻で、わたしは自分の通らなければならない試練と、神がわたしにお示しになった事柄を、他の人々のところへ出かけて語る義務があることが示された。……

わたしは何日も夜遅くまで熱心に祈って、この重荷がわたしから取り除かれて、それを担うにもっとふさわしいだれかに負わされるように願った。しかし、義務の光は変わらなかった。（教会への証 1 巻 58 ～ 60）

わたしの救い主はわたしに主の使命者となるように言明なさった。このお方はわたしに、「あなたの仕事は、主の言葉を伝えることである。……わたしの霊とわたしの力があなたと共にある。……メッセージを伝えるのは主である」と指示なさった。（*エレクト・メッセージ* 1 巻 32）

わたしは単に自分自身の考えを表現して……書いているのではない。それは神がわたしに幻の中で明らかにしてくださったこと—御座から輝き出ている尊い光線である。（教会への証 5 巻 67）

イエスのあかし

「そこで、わたしは彼の足もとにひれ伏して、彼を拝そうとした。すると、彼は言った、『そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたと同じ僕仲間であり、またイエスのあかしびとであるあなたの兄弟たちと同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい。イエスのあかしは、すなわち預言の霊である。』」（黙示録 19:10）

他のすべての書物にまぎって、神の御言はわたしたちの研究主題、偉大な教科書、すべての教育の基礎でなければならない。（教会への証 6 巻 131）

証の書は、神の御言を軽んじるものではなく、御言を高め、人の心を御言に引きつけ、それによって真理の美しい単純さをすべての者に印象づけるためのものである。（教会への証 5 巻 665）

わたしは尊い聖書を取り、それを数冊の教会の証でかこんだ。……わたしは、この中でほとんどすべての人の事例に応じているとすることができる。彼らが避けるべき罪が指摘されている。彼らが願っている勧告、すなわち彼ら自身とよく似た状況におかれた事例に与えられた勧告をこの中で見出すことができる。神は喜んであなたがたに教訓に教訓、規則に規則を与えてこられた。しかし、証の書に何が記されているかを本当に知っている者は多くない。あなたがたは、聖書に親しんでいない。もし、あなたがたが聖書の基準に達し、クリスチャンの完全に到達したいとの願いをもって、神の御言を研究していたなら、証の書を必要とはしなかったであろう。……

主は、あなたがたに与えられた証の書を通して、あなたがたに警告し、譴責し、勧告し、あなたがたの思いにご自分の御言の真理の重要性を印象づけようとしておられる。記された証は、新しい光を与えるためではなく、すでに表わされた靈感の真理を、心に生き生きと印象づけるためである。神と同胞に対する人の義務は、神の御言の中にはっきりと明確に述べられている。しかしなお、あなたがたのうち、与えられた光に従順な者はほんのわずかである。追加的な真理が持ち出されているのではない。そうではなく、神は証の書を通して、すでに与えられた偉大な真理を易しくし、ご自身の選ばれた方法のうちに、民を目覚めさせ、その思いに真理を印象づけるために、それらを民の前に示されたのである。それは、すべての人に言い訳の余地を残さないためであった。（教会への証 2 巻 605）

もし、わたしたちがそれ〔証の書にある警告〕を無視するなら、わたしたちはどのような弁解ができるだろうか。（教会への証 8 巻 298）

すべてのものを確かめる

「御霊を消してはいけない。預言を軽んじてはならない。すべてのものを識別して、良いものを守り」(テサロニケ第一 5:19～21)

「古代において神は、預言者や使徒の口を通して人々に語られた。今日この方は、ご自分の御霊の証によって彼らにお語りになる。神がご自分のみ旨と、人々が進むことを望んでおられる道に関して、今彼らを教えておられるほど、熱心に神の民を教育なさったことはかつてなかった。(教会への証 5 巻 661)

メッセージの初期に与えられた指示は、この終わりの時代に従って安全な指示として保持されるべきである。(ビュー・アンド・ヘルド 1907 年 7 月 18 日)

証の書はその実によって判断されるべきである。その教えの精神はなんであろうか。その影響の結果はこれまでどのようなものだったのだろうか。そうしたいと願う者はみな、この幻の実で自分自身を知ることができる。……。」

この働きは神のものであるか、さもなければそうでないかである。神はサタンとは何事も協力してなさることはない。わたしの働きは……神の印を帯びるか、さもなければ敵の印をおびるかである。この事柄に中途半端な働きはない。証の書は神の御霊によるものか、さもなければ、悪魔の霊によるのである。(教会への証 5 巻 671)

サタンの最後の惑わしは、神の御霊の証の効果をまったくなくすことである。「預言がなければ民はわがままにふるまう(幻がなければ、民は滅びる)」(箴言 29:18)。サタンは巧みにいろいろな方法で、さまざまな代理人を通して、まことの証に対する神の残りの民の確信を揺るがすために働く。彼は偽りの幻をもって誤り導き、真理と偽りを混ぜて、それによって人々に嫌悪を覚えさせ、幻と名のつくものはみな狂信の類だとみなすようにした。しかし、正直な魂は偽りと真理を比較し、それらを識別することができる。(手紙 12, 1890 年)

人々がかつては信じた証の書を疑い、それを捨てる時、サタンは彼らが欺かれた者たちがここでとまらないことを知っている。そして彼らが公然とした反逆、すなわち癒すことのできなくなり、破滅に終わる反逆に乗り出すまで、サタンは自分の努力を倍増する。(教会への証 5 巻 672)

人の僕

「よくよくあなたがたに言うておく。僕はその主人にまさるものではなく、つかわされた者はつかわした者にまさるものではない。」(ヨハネ 13:16)

その生活と教訓を通して、キリストは、神にみなもとがある無我の奉仕について完全な実例をお与えになった。神はご自分のために生活されない。世界を創造することによって、また万物をささえることによって、神はたえずほかのもののために奉仕しておられる。……この奉仕の理想を、神はみ子に託されたのである。イエスが人類のかしらに立つために与えられたのは、奉仕することがどうということであるかをご自分に模範によって教えるためであった。イエスの一生は奉仕の法則の下にあった。……こうして主は、神の律法を生活し、ご自分の模範によって、われわれが神の律法にどのように従うべきかを示された。

イエスは、この原則を弟子たちのうちに確立しようと幾度も試みられた。ヤコブとヨハネが高い地位を願ったとき、主は、「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人と……ならねばならない」と言われた(マタイ 20:26, 27)。わたしの王国では優先と優越は許されない。唯一の偉大さは謙遜の偉大さである。唯一の卓越は他人への奉仕に献身することにある。(各時代の希望下巻 125, 126)

洗足式は奉仕の儀式である。これは主がすべての者に学ばせ、実践させたいと思っておられる教訓である。この儀式が正しく執り行われるなら、神の子らは互いに聖なる関係に入り、互いに助け合い、祝福し合う。

人の生まれつきの心に住みつき、自分自身に仕えることによってますます強くなる利己心のために、主の民が道をまちがえないようにキリストご自身が謙遜の模範を示されたのである。主はこの大きな問題を人の責任にまかせておかれなかった。神と等しいお方であるキリストご自身が、弟子たちに対してしもべとしてふるまわれたほど、主はこの問題を重視された。……この儀式はわたしたちにとって大きな意味がある。神は単に外面的な清めという一つの行為だけでなく、光景全体を理解させたいと望んでおられる。この教訓は、単に一つの行為に差し向けられているのではない。それはキリストこそ、その恵みを通して、互いの交わりにおいて、わたしたちがどのようにあるべきかの模範であられるという偉大な真理を明らかにするものである。それは全生涯が謙遜で忠実な奉仕の生涯であるべきことを示している。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初作・コメント] 5 巻 1138, 1139)

へりくだりにおけるイエスの模範

「しかし、主であり、また教師であるわたしが、あなたがたの足を洗ったからには、あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。」(ヨハネ 13:14, 15)

人のうちには、自分を兄弟よりも高く評価し、己のために働き、最高の地位を求める傾向がある。そしてこのことから、しばしば悪い憶測と冷酷な精神が生じる。聖餐式に先立つ洗足式は、こうした誤解を一掃し、人を利己心から引き離し、高慢というたけうまからおろして、兄弟に仕えるへりくだった心を与えるのである。(各時代の希望下巻 127)

洗足式は真の謙遜の必要性を最も力強く表わしている。弟子たちが、約束された王国における最高の地位を求めて争っていたその一方で、キリストご自身が手拭を腰に巻いて、ご自分を主と呼んでいる人々の足を洗う行為により僕の働きをなさった。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1139)

洗足式が制定されたのは、人が互に和解し、一致するためであった。……この式が行われる時はいつでも、聖霊を通してキリストが臨在しておられる。心に罪の自覚をもたらすのはこの霊によってである。

キリストが弟子たちとこの儀式をなさったとき、ユダを除くすべての者に罪の自覚が及んだ。そのようにわたしたちは、キリストがわたしたちの心に語りかけるとき罪を自覚する。魂の泉がくだかれる。思いは活気づけられ、活動と命が生じる。分裂や疎遠の原因となっていたすべての障害が打ち壊される。犯された罪はかつてなかったほど、はっきりと現われる。なぜなら聖霊がそれらをわたしたちの記憶に呼び起こすからである。(伝道 275)

今、弟子たちの足を洗ってしまわれると、主は、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ」と言われた。……キリストはここに一つの宗教的行事を制定しておられたのである。主の行為によって、この謙遜式は、聖別された儀式となった。それは、謙遜と奉仕についてのキリストの教訓をいつも心におぼえているように、弟子たちによって守られるのであった。(各時代の希望下巻 126)

忠誠の証拠

「もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。」(ヨハネ 13:17)

洗足式は宗教上の奉仕となった。……それは、神の子らの忠誠を試し、証明するものとして与えられた。現代のイスラエルが聖餐式を行うとき、この儀式は、主の死の象徴にあずかる儀式に先立つべきである。

この儀式はキリストの弟子たちの益となるために与えられた。そして「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。……もしこれらのことがわかってそれを行うなら、あなたがたはさいわいである」との言葉がキリストの唇から出たとき、このお方は仰せになったとおりを意味しておられた。このお方はこれによって、参加した者の心と思いの真の状態を試すことを意図されていた。(伝道 275)

キリストは、弟子たちの足を洗うことが彼らの罪を洗い流すのではなく、彼らの心の清めがこの謙遜な奉仕において試されるのだということを理解させるために彼らにお与えになった。もし心が清められているなら、この行為は、その事実を明らかにするのにこの行為だけで十分であった。このお方はユダの足をお洗いになった。しかし、主は「あなたがたはみんながきれいなのではない」と言われた。ユダはこの場に裏切り者の心を持ってきた。そしてキリストは、彼が自分の主を裏切る者となることをご自分が知っておられること、また、ユダの足を洗う行為は、道徳的な汚れからその魂を清める儀式ではなかったことをすべての者に明らかにされた。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1138)

信者たちがこの儀式を守るために集まるとき、そこには人の目に見えない使者たちが出席しているのである。……天の御使たちもそこにいる。こうした目に見えない訪問者たちが、このような式にはかならず出席しているのである。……

キリストは、ご自身の式に印をおすために、聖霊によってそこにおられる。主は、罪を自覚させ、心をやわらげるためにそこにおられる。罪を悔いる表情と思いを、一つとして主は見のがされない。主は悔い改めて心の砕ける者を待っておられる。その魂を受け入れるために、すべてのことが用意されている。ユダの足をあらわれたお方が一人一人の心から罪のけがれを洗いたいと待ちこがれておられる。……主に固い信仰を置いてこれにあずかる者はみな大いに祝福される。(各時代の希望下巻 137, 138)

わたしを記念するため

「またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』」（ルカ 22:19）

ご自分の弟子たちと共に守られた最後の過越の祭において、わたしたちの主は、ご自分の死の記念として守るようにと、過越の祭に代わって主の晩餐を制定された。（ユース・インストラクター 1873 年 5 月 1 日）

ユダヤ人の国民的祭典は永久に過ぎ去るのであった。そしてキリストがお定めになった式が、どの国どの時代においても弟子たちによって守られるのであった。（各時代の希望下巻 130）

神は、このような式にだれを出席させるかを人が口にするをおゆるしにならなかった。なぜなら、だれが心を読むことができるだろう。毒麦と麦の区別がだれにできるだろう。「だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである」。なぜなら「ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。」「主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである」（コリント第一 11:28, 27, 29）。……

弟子たちといっしょにパンとぶどう酒にあずかることによって、キリストは、ご自分が彼らのあがない主となれることを彼らに契約された。……キリストの裂かれた体と流された血潮を象徴するパンとぶどう酒をいただくときに、われわれは、想像を通して、あの二階座敷の聖餐の場面に加わるのである。われわれは、世の罪を負われたキリストの苦悩によって神聖なものとされたあの園を通していくような気がする。神に対するわれわれの和解が達成されたあの戦いが目に見える。キリストはわれわれの中に十字架につけられた姿で示される。

十字架につけられたあがない主をみつめる時に、われわれは、天の大君によって払われた犠牲の大きさと意味とをもっと十分に理解できるようになる。救いの計画はわれわれの前に輝き、カルバリーの思いはわれわれの心に生き生きとした聖なる感情をよびさます。神と小羊への賛美がわれわれの心とくちびるに宿る。なぜならカルバリーの光景をいつも生き生きと記憶している魂のうちには、高慢と自己崇拝の思いは栄えることができないからである。（同上 136, 137, 142）

「わたしの血で立てられる新しい契約」

「食事ののち、杯も同じ様にして言われた『この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。』（ルカ 22:20）

弟子たちといっしょにパンとぶどう酒にあずかることによって、キリストは、ご自分が彼らのあがないの主となられることを彼らに契約された。主は彼らと新しい契約をされたが、その契約によって主を受け入れる者はみな神の子となり、キリストと共同の相続人となるのである。この契約によって、天がこの世と来世でお与えになることのできるあらゆる祝福が彼らのものであった。この契約書はキリストの血によって批准されるのであった。そしてこの聖さん式をとり行うことは、墮落した人類という大きな全体の一部として弟子たちひとりびとりのために個人的に払われた無限の犠牲をたえず彼らの目の前に示すことになった。

しかし聖さん式は悲しみの時となるのではなかった。これはその目的ではなかった。主の弟子たちは、主の食卓に集まるとき、自分の欠点を思い出して、嘆き悲しむのではない。彼らは、過去の信仰経験が向上しようとして低下しようとして、それに思いを集中するのではない。兄弟たちとの間の不和を思い出すのではない。すべてこうしたことは準備の式に含まれていたのである。自分を吟味することや、罪を告白することや、不和を解消することはすべてもうすんだのである。いまは彼らはキリストと会うために来ているのである。彼らは、十字架の影ではなくて、救いの光の中に立っている。彼らは、義なる太陽キリストの輝かしい光に向かって魂を開くのである。彼らはキリストのとうとい血潮によってきよめられた心を持ち、目に見えなくてもキリストの臨在を十分に意識して、「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる」と言われる主のみことばを聞くのである（ヨハネ 14:27）。（各時代の希望下巻 138）

贖いの犠牲は完全で十分である。それは主の血で印された新しい契約であって、この血は多くの者の罪の許しのために流されたのである。このことをキリストは最後の晩餐のとき宣言なさった。信仰によって飲む者に、この杯には平和を作り出し、魂を清める力がある。それはギレアデの乳香であって、神が、罪に陥った魂に健康と健全を回復するために備えて下さったのである。（SDA パイブル・コメント [E.G. ホル・コメント] 5 巻 1102）

あなたがたが食し、飲むごとに

「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。」(コリント第一 11:26)

人の救いは、自分の心にキリストの清めの血を絶えず塗ることにかかっている。それゆえ主の聖餐式は、ただ時おり、年ごとに守るのではなく、年一回の過越の祭よりも、もっと頻繁に行うべきである。この厳かな儀式は、イスラエルの子らがエジプトから救出された時よりもはるかに偉大な出来事として記念している。エジプトからの救出は、キリストがご自分の民を最終的に救出するため、ご自身の命を犠牲になさって成し遂げられる偉大な贖罪を表す型であった。(霊の賜物 3 卷 228)

この儀式は多くの者がそうするように、排他的であってはならない。一人びとりがこの儀式に公に参加し、こうして証を担うのである。すなわち、わたしはキリストをわたしの個人的な救い主として受け入れている。このお方はわたしのためご自分の命を与えてくださり、それゆえわたしは死から救われたのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1898 年 5 月 31 日)

聖さん式はキリストの再臨をさし示している。それはこの望みを弟子たちの心に生き生きと保つためであった。キリストの死を記念するために共に集まったときにはいつでも、彼らは、主が「杯を取り、感謝して彼らに与え……、『みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。あなたがたに言うておく。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲むその日まで、わたしは今後決して、ぶどうの実から造ったものを飲むことをしない』」と言われたあの時のことを語り合うのであった(マタイ 26:27～29)。苦難のうちにあるとき、彼らは主の再臨という望みに慰めを見出した。「だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである」との思いは、彼らにとって口に言いあらわせないほどとういのであった。……

キリストは、この儀式が、……神の愛についてわれわれの感覚に語りかけるように、これをお定めになった。キリストによる以外には、われわれの魂と神とを結びつけるものはない。兄弟と兄弟との間の一致と愛は、イエスの愛によって固められ、永遠なものとされなければならない。キリストの死より以下のものでは、主の愛をわれわれのために効力のあるものとすることができない。われわれが主の再臨を喜びをもって期待できるのは、キリストが死んでくださったからにほかならない。キリストの犠牲はわれわれの望みの中心である。(各時代の希望下巻 139, 140)

キリストのバプテスマと苦難

「あなたがたはバプテスマを受けて彼と共に葬られ、同時に、彼を死人の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、彼と共によみがえらされたのである。」(コロサイ 2:12)

キリストは安息日に墓の中で休まれ、週の第一日目の朝、天と地の聖なる存在者たちが活動しはじめたとき、このお方はご自分の弟子たちを教える働きを新たに始められるために墓からよみがえられた。しかし、この事実によって、週の初めの日が聖別され、安息日とされたのではない。イエスはご自分の死に先立って、主の晩餐式のときに、「だからあなたがたはこのパンを食し、この杯をのむごとに、それによって、主がこられる時に至るまで主の死を告げ知らせるのである」と言われることにより(コリント第一 11:26)、世の罪のためにご自分のからだを裂き、血を流された記念の式を制定なさったのである。そして、悔い改めた信者は、改心の時に要求された段階を踏み、自分のバプテスマによって、キリストの死、埋葬、そして復活を記念するのである。人はキリストの死と埋葬と同じ様で水の中に入り、キリストの復活と同じ様で、水から引き上げられて……キリスト・イエスの内にある新しい人生を生きるのである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 5 巻 1113)

栄光の王の苦難と死を見たときに、天使の万軍が驚きに満たされた……。しかし、……生命と栄光の主が、死の束縛を破って、牢獄から勝ち誇った勝利者として出て来られることは、彼らにとって少しも驚きではなかった……。それだから、もしこれらの事件のどちらかが、休日によって記念されるべきであるとすれば、それは十字架である。しかし、この二つの事件は、どちらも神の律法を変更、または廃止するために計画されたものでない……。逆に、これらは、その不変性の最も強力な証拠となるのである。……

安息日は、墮落以前に、エデンにおいて制定された。そして、アダムとエバおよび天の万軍によって守られた。神は七日目に休んで、その日を祝福し聖別された。わたしは、安息日が決して廃止されないことを見た。贖われた聖徒たちと天の万軍は、偉大な創造主をたたえて、安息日を永遠にわたって守るのである。(初代文集 359 ～ 361)

主がわたしたちにお与えになった名

「もし、あなたの神、主の戒めを守り、その道を歩むならば、主は誓われたようにあなたを立てて、その聖なる民とされるであろう。そうすれば地のすべての民は皆あなたが主の名をもって唱えられるのを見てあなたを恐れるであろう。」(申命記 27:9, 10)

もしわたしたちが天の嗣業、すなわち栄光に輝く、永遠の富を所有したいのであれば、わたしたちは神と誓約関係に入り、キリストへ魂を導くために自己の全能力を用いなければならない。……神の民は、特殊な、聖なる人々であって、品性においても行動においても世からはっきり異なり、その時代のすべての宗教家と区別される存在でなければならない。彼らは個人的な敬神と良き働きの模範とならなければならない。わたしたちが今まで行っていたよりも、もっと高貴な、また聖なる働きがわたしたちのために用意されている。キリストは「わたしの王国はこの世のものではない」と言われる。この国の原則は、世の原則に合致するものではない。世を天へ導くために、ご自分の教会を世にある光としてすえられた。教会は地上にある天の一部であり、闇に包まれた魂の行く道を照らす天の光であるべきである。(ビュー・アンド・ワルド 1890 年 1 月 21 日)

あなたは世に対し、天使に対し、人に対する見世物である。神の民は今光を受け、それを放散すべきである。彼らは輝こうと努力する必要はない。もし彼らの心がキリストによって照らされているなら、輝かずにはいられないからである。輝きはおのずと現れてくる。真の弟子はみな世に対して、キリストを罪を許される救い主として表わす。(同上 1898 年 6 月 26 日)

わたしたちはセブンスデー・アドベンチストである。わたしたちはこの名を恥じるであろうか。わたしたちは「いいえ!」と答える。わたしたちはこの名を恥じない。これは主がわたしたちに与えてくださった名である。そして、この名は教会の試金石となるべき真理を指し示している。そのために、わたしたちは絶えずイエスを見つめていなければならない。(キリストを映して 58)

セブンスデー・アドベンチストという名は、わたしたちの信仰の真の特色を前面に出しており、尋ね求める心に確信を与える。主の矢筒から射る矢のように、この名は神の律法の違反者を傷つけ、神に対する悔い改めと、わたしたちの主なるイエス・キリストを信じる信仰へと導くのである。(教会への証 1 巻 224)

宗教があなたのために何をなすことができるかを見よう……あなたを見ている人がたくさんいる。もしあなたが、あなたのお与えになった仕事に忠実であるなら、あなたは正しい印象を与え、義の道に魂を導くのである。(ビュー・アンド・ワルド 1888 年 10 月 16 日)

破壊者ではなく、建設者

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市外を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)

神は生ける教会をお持ちではないのだろうか。神は教会を持っておられる。しかし、それは戦っている教会であって、勝利した教会ではない。不完全なメンバーがいるのは残念なことである……主が、真に改心している者を教会につれてこられる一方、サタンは改心していない者を、教会員として連れて来る。キリストが良い種をまいておられる一方で、サタンは毒麦をまいている。教会員に絶えず働きかける二つの相反する感化力がある。一つの感化力は教会の精錬の働きをし、もう一方は、神の民の墮落のために働いている。……

教会に悪が存在しており、世の終わりまで存続するだろうが、この最後の時代の教会は、汚れて墮落している世の光となるべきである。……

世にあって、現在、破れの中に立って、垣根を作り、久しく荒れすたれたところを興している一つの教会がある。だれでも世や他の教会の注目を集めて、この教会をバビロンと非難する者は、兄弟を告発する者と調和する働きをしているのである。……全世界が、神の律法の拘束力を宣布する人々への憎しみで満たされているため、エホバの神に忠実な教会は、並々ならぬ戦いにたずさわらなければならない。……その戦いが何を意味するかをいくぶんかでも悟っている人々は、自分たちの武器を戦っている教会に対して向けることなく、全力をつくして神の民と共に、悪の連合に対して組み打ちするのである。

自分自身の個人的な責任でメッセージを宣言し始める者、すなわち神の教えと導きによるものだと言主張しながら、なお神が長年かけて建ててこられたものを打ち壊すことを自分たちの特別な働きとしている者は、神のご意志を行っているのではない。この人々は、大欺瞞者の側に立っているのだということを知りなさい。彼らを信じてはならない。(牧師への証 45, 46, 49～51)

ラオデキヤの人々のための富

「そこであなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。」(黙示録 3:18)

ラオデキヤ教会に対するメッセージは、大いなる光と多くの機会がありながら、それを感謝してこなかったすべての者にあてはまる。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホワット・コメント] 7 巻 961)

本当にはイエスに従っていないのに、クリスチャンだと公言する人がたくさんいる。彼らは、しかるべき自己否定と自己犠牲によって十字架を背負わない。熱心なクリスチャンであると立派に宣言はするけれども、自分自身の不完全さという糸を自分の品性という織物に織り込むので、美しい模範がそこなわれている。彼らについてキリストはこう言われる。「あなたは自分は富んでいて、想像上の霊的な偉業を増し加えていると自慢する。実際には、あなたは冷たくも熱くもなく、むなしいうぬぼれで満たされている。改心しなければ、あなたは救われることはできない。なぜなら、あなたは、その聖化されていない知恵で天国を損なうからである。わたしはあなたの精神と働きを是認することはできない。あなたは聖なる模範に従って行動していない。あなたは単に自分が発明した模範に従っているだけである。あなたはなまぬるいので、あなたをわたしの口から吐き出さねばならない」(同上 965)

まことの証人は次のように言われた、「富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい」(同上 965)

イエスは戸口から戸口へ行きめぐり、すべての魂の入り口に立っていわれる「わたしは戸の外に立ってたたいている。」天来の商人として、イエスのご自分の宝を見せて下さる。……「戸を開けなさい」と霊的富の保有者であられる偉大な商人は言われる。「そしてわたしと取引をなさい。あなたにわたしから買いなさいと勧告するのは、あなたの贖い主であるわたしである。」(同上 965, 966)

まことの証人の勧告は、励ましと慰めに満ちている。教会はなお、真理、信仰、愛という金を手にいれ、天の宝に富むことができる。(同上 965)

神の律法を守る人々

「ここに神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。」(黙示録 14:12 英語訳)

わたしたちは、偉大で厳粛なできごとの戸口に立っている。預言は成就されつつある。不思議な波乱に富む歴史が、天の書物に記録されつつある。この世のあらゆる事が不安な状態にある。言うなれば、ほんの一瞬の間だけが、まだ残されているのである。……

すべての者が自分の立場を決めるとき、サタンは最後の強大な戦いのため、忙しく計画を練っている。……

人は盲目のうちに、すばらしい進歩と啓蒙を自慢するが、全知の神の御目には内面の罪と腐敗が明らかである。天の見張り人は地が暴力と犯罪に満ちているのを見る。富はあらゆる種類の盗み、すなわち人から盗むだけでなく、神から盗むことによって獲得される。人は自分の利己心を喜ばせるためにこのお方の財産を用いている。彼らがつかむことのできるものは何でも、彼らの貪欲を満たすものとされている。貪欲と肉欲が行きわたっている。人は最初の欺瞞者の特質を心に抱いている。彼らは……彼の精神を吹き込まれてきた。

しかし、裁きの神の怒りの雲が彼らの上にたちこめており、そこにはソドムを滅ぼした要素が含まれている。来るべきことについての幻の中で、預言者ヨハネはこの光景を見た。この悪魔への礼拝が彼に示されたが、あたかも全世界が滅亡の淵に立っているかのように彼には思われた。しかし、深い関心をもって見つけたとき、彼は神の戒めを守る人々の群れを見た。彼らのひたいに生ける神の印があり、彼は次のように言っている、「ここに神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。(教会への証 6 巻 14, 15)

この明確に区別された旗印……〔黙示録 14:12 引用〕は、恩恵期間の終わりでまで、世界中で担われなければならない。(同上 144)

今はわたしたちの旗を降ろし、わたしたちの信仰を恥とすべき時ではない。(同上)

すべての者は、自分の分と場所に立ち、神の御霊と調和して考え、話し、行動をすべきである。(同上 293)

全世界への福音

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。」(マタイ 24:14)

出て行ってこの任命を果たす責任は、按手礼を受けた牧師にだけ負わされているのではない。キリストを受け入れたものはみな、同胞を救う仕事に召されているのである。「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい」(黙示録 22:17)。この招待をせよとの命令は、すべての教会に出されたものである。この招待を聞く者はみな「きたりませ」と言って、この招きを丘から谷へこだまさせなければならない。

救霊の働きが牧師にのみかかっていると考えるのは、重大な誤りである。ぶどう園の主から魂への重荷をゆだねられ、へりくだって献身した信徒には、いつそう大きな責任を神からさずかっている人々からの、励ましが必要なければならない。神の教会における指導者として立つ人々は、救い主の任命が、み名を信じるすべての者に与えられていることを知らなければならない。神はまだ按手により牧師職に聖別されていない多くの人々を、ぶどう園に送りこまれるであろう。

すでに救いのおとずれを聞いた幾百、いや、幾千もの人々は、活動的な奉仕に携わることができるはずなのに今もなお、市場で何もせずにはらばらしている。そのような人々にキリストは「なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか」と言われ、更に「あなたがたも、ぶどう園に行きなさい」と言っておられる(マタイ 20:6, 7)。この招きになぜもっと多くの人々が応じないのか。彼らは聖職に立たないのだから、義務を免じられているとでも思っているのだろうか。幾千もの献身した信徒たちのしなければならない大きな仕事は、聖職以外にあることを彼らは知らなければならない。

奉仕の精神が教会全体にゆきわたって、教会員がのこらず各々の才能に応じて主のために働くのを、神は長いあいだ待っておられる。福音事業の任命を完成するために、神の教会の会員が、光の必要な自国や外国の伝道地で、それぞれ定められた働きをするならば、まもなく全世界に警告がゆきわたり、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの世にもどってこられるのである。(患難から栄光へ上巻 115,116)

愛は愛を生む

「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡された方が、どうして御子のみならず万物を賜らないことがあろうか。」(ローマ 8:32)

本当に改心した者は、……働きの前進のために、神が自分たちの手に委ねられた財産を用いる。……

わたしたちはキリストの証人である。そしてわたしたちは世俗的な関心や計画がわたしたちの時間や注意をすっかり奪ってしまうことを許してはならない。危機にひんしているもっと高い関心事がある。……

わたしたちは不必要な物に費やすお金に対して弁明する。……不要な物を買ってお金を浪費してはならない。あなたはこれくらい小額であれば大した事はないと思うかもしれないが、小額のものが沢山集まれば、大変な額になるのである。贅沢な出費はすべて抑えなさい。単に誇示するためのものを何一つ欲しいままにしてはならない。あなたのお金は、魂の救いに用いるように定められている。すべての人の側で、組織的に捧げるようにしなさい。ある者は、多額の献金を捧げられないかもしれないが、みな週ごとに主のためにいくらかたくわえておくことはできる。子供たちに、自分の役割を果たさせなさい。子供たちが自分のお小遣いを主に捧げるために、節約するよう両親は教えなさい。福音伝道は、自己否定と犠牲によってささえられるべきである。……

教会員は頻繁に献金が求められるからと言ってつぶやいてはならない。度々の呼びかけが必要とされているのはどうしてであろうか。それは、伝道計画が急速に進んでいるからではないであろうか。……

救うべき魂があるかぎり、救霊の働きへのわたしたちの関心は、減すべきではない。教会が自らの務めを縮小するということは、主を拒むことである。……

失われた魂に対する愛が、キリストをカルバリーの十字架に向かわせた。魂に対する愛が、失われている者を救うために、わたしたちを自己否定と犠牲へ導く。そしてキリストに従う者が、主に主ご自身のものをお返しするとき、彼らは、次の言葉を聞くときに自分のものとなる宝を積んでいるのである。「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ」(マタイ 25:21)。……永遠に救われた魂を見る喜びが、贖い主の御足の跡に踏み従うすべての者の報酬となる。(教会への証 6 巻 293)

岩の上に建てる

「そこでわたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そしてわたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」(マタイ 16:18)

ペテロということばは、石—ころがる石—という意味である。ペテロは、その上に教会を建てられる岩ではなかった。よみの門は、ペテロがのろいと誓いとをもって主をこぼんだときに彼に打ち勝った。教会は、よみの門が打ち勝つことのできないおかたの上に建てられた。……教会は、キリストを土台として、その上に建てられている。教会は、キリストをかしらとして、キリストに従うのである。(各時代の希望中巻 180, 183)

もしイエスが何か特別な権威を特に一人の弟子におさずけになったのだったら、弟子たちの中でだれが一番えらいかということについてしばしば論争されるようなことはなかったであろう。彼らは主のご希望に服従して、主がえらばれた一人を尊敬したであろう。

キリストは、一人を彼らの首長として任命することをしないで、「あなたがたは先生と呼ばれてはならない……あなたがたは教師と呼ばれてはならない。あなたがたの教師はただひとり、すなわち、キリストである」と弟子たちに言われた(マタイ 23:8, 10)。

「すべての男のかしらはキリストで……ある」(コリント第一 11:3)。神は、万物をキリストの足の下に従わせ、彼を「かしらとして教会に与えられた……」(エペソ 1:22)。(各時代の希望中巻 182)

神と全天使たちの前で、また目に見えないよみの軍勢の前で、キリストは生ける岩の上に自分の教会を建てられた。その岩はキリストご自身—われわれのために裂かれ傷つけられたキリストご自身のからだ—であった。この土台の上に建てられた教会に、よみの門は打ち勝つことができない。……

六千年の間、信仰はキリストの上に築かれてきた。六千年の間、サタンの怒りという洪水と嵐がわれらの救いの岩なるキリストを襲った。だがそれは動かされることなく立っている。……

信仰の岩は、教会内におけるキリストの生きた存在である。どんなに弱い者も、キリストにたよることができ、自分は一番強いと思っている者も、キリストを力としないかぎり、一番弱い者であるということがわかる。……「主は岩であって、そのみわざは全く」「すべて主に寄り頼む者はさいわいである」(申命記 32:4, 詩篇 2:12)。(各時代の希望中巻 181 ~ 183)

研究 4

三重のメッセージ



第一天使のメッセージ

Part III

「神を恐れ」

民の間には、「彼らの目の前には、神に対する恐れが」ありませんでした（ローマ 3:18）。しかし、信心深いヨセフは「わたしは神を恐れます」と宣言しました（創世記 42:18）。なぜなら、彼は「そして主はこのすべての定めを行えと、[わたし]に命じられた。これは[わたし]の神、主を恐れて、[わたし]が、つねにさいわいであり、また今日のように、主が[わたし]を守って命を保たせるためである」と信じていたからです（申命記 6:24）。まことに、彼は「すべての人の本分」を理解していたのでありました（伝道の書 12:13）。

わたしたちは、「大声で言った、『神をおそれ』」よというメッセージがわたしたちに訴えている時代に生きています（黙示録 14:7）。サタンは忠実なヨブを「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか」（ヨブ 1:9）と告発したように、神の残りの民を夜も日も訴えています。なぜなら、彼はこの地上歴史の最後の時代に、「神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける」女の残りの子らがあり、彼らが忠実に、「神をおそれて全く清くな」っていることを知っているからです（コリント第二 7:1）。

「主を恐れること」を真剣に「知恵のもと」として受け入れる人は、「神を知ることができ」ます（箴言 2:5）。「あなたは、この地上にいる間に神との交わりを楽しんでいないかぎり、決して天国に入ることはできない。なぜなら、それこそ、わたしたちが天国のためにふさわしくなることだからである。神が魂の最高の敬神と愛と畏れの対象であるべきである。」（天国で 161）。

「家庭で神を第一にし、子供たちに神を恐れることが知恵の始まりであることを教え、よく治められ、よく訓練された家族、神にさからう代わりに神を愛し神に従う家族を示す父母は、天使と世の人々に神の栄えを表わす。彼らの家庭ではキリストは見知らぬお方ではない。キリストの名前は尊敬され、あがめられ

る家庭の名前である。天使たちは神が支配しておられる家庭をよろこぶ。そしてこういう家庭では、子供たちは宗教と、聖書と、彼らの造り主を尊重するように教えらる。こういう家族は『わたしを尊ぶ者を、わたしは尊(ぶ)』という約束を主に果たしていただくことを要求することができる。」(アドベンチストホーム 361)。

信心深い畏れ

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」(ピリピ 2:12～13)。

「今日、キリストの弟子たちは、神を恐れかしこむ精神を失わないように、気をつけていなければならない。聖書は人々がどのようにして彼らの造り主に近づくべきか、すなわち、仲保者であられるおかたを信じて、謙遜と畏敬の念をもって近づくべきことを教えている。」(国と指導者上巻 22)

「この時代の大きい危険であり、かつ個人にも家族にも多大な不幸をもたらすものは、強度に増加している世俗である。神への愛と畏れ、このお方の御名への敬神、天の事柄を思うことが、忙しく熱心に世のことを追い求めるうちに払いのけられている。神はご自分の要求を知らせてこられたが、人はそれらに注意を払ってこなかった。宗教の原則が家庭の中で死に絶えつつある。」(ビュー・アンド・ワルド 1885 年 2 月 24 日)

「このように神に仕える人々の平安と喜びには、つねに信心深い畏れが共に見られた。「それだから、神の安息にはいるべき約束が、まだ存続しているものにかかわらず、万一にも、はいりそこなう者が、あなたがたの中から出ることがないように」。この聖化された畏れは、全く正当なものである。それは、卑屈で臆病な恐れではない。それは、一つでもキリストが是認なさらないことをすることを非常に恐れることである。この畏れが、クリスチャンの経験を統制する。この畏れを感じる人々は、自分たちの心のうちにおられる主を聖別する。彼らは自己謙遜へと導く敬神と愛をもって神のことを尊重する。しかし彼らの畏れは、むちを恐れて生きる奴隷の恐怖とは全く異なっている。この本物の畏れは、神に固く寄りすがるようにと導くのである。」(サインズ・オブ・タイムズ 1898 年 9 月 22 日)

信心深い畏れは本物の悔い改めを産む

「すると、エルサレムとユダヤ全土とヨルダン附近一帯の人々が、ぞくぞくとヨハネのところにできて、自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた。」(マタイ 3:5, 6)。「神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。」(コリント第二 7:10)

「そのメッセージは、どこであっても、人々の心を動かした。罪人は悔い改め、涙を流して、罪の許しを祈り求めた。そして、不正直な生活を送っていた人々は、なんとかして償いをしようとした。親たちは、子供たちのことを深く憂えた。メッセージを信じた人々は、まだ悔い改めていない友人や親せきのために働き、その厳粛な使命の重要性を心に強く感じて、人の子の来臨に備えるように警告し訴えた。このような心からの警告によって示された重大な証拠をも信じなかった人々は、まことに頑固な人々であった。この魂を清める働きは、人々の愛情を世のものから取り去って、これまでになかったような献身へと導いたのである。」(初代文集 383)

「この人々は、悔い改めにふさわしい実を結んだ。彼らは信じてバプテスマを受け、キリスト・イエスにあって新しく造られた者として、新しい生活を始めた。彼らは以前の欲に従うことなく、神のみ子を信じる信仰によって、み足の跡に従い、主の品性を反映し、主が清くあられるように自分たちも清くなろうとした。彼らは、かつて憎んだものを愛し、愛したものを憎むようになった。高慢で自負心の強い者は、柔和で謙遜になった。虚栄心があつておうへいな者は、まじめでひかえ目になった。低俗な者は敬虔に、酒のみは謹直に、そして放蕩者は純潔になった。世俗のむなしい流行は、放棄された。キリスト者は、「髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾り」を求めた。「これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである」(ペテロ第一 3:3, 4)。

リバイバル(信仰復興)は、深い内省と謙遜をもたらした。罪人に対しては厳粛熱心に訴え、キリストの血による贖いに対してはあわれみを求めるのが、リバイバルの特徴であった。男も女も、魂の救いのために、神に祈り神と格闘した。こうしたリバイバルの結果、克己と犠牲をもいとわず、むしろキリストのためにそしりと試練を受けるに足る者とされたことを喜ぶ者たちが現われた。人々は、イエスの名を告白する者たちの生活が変化したことを認めた。社会は、彼らの感化によって益を受けた。彼らは、キリストとともに集め、永遠の生命を刈り取るために霊にまいた。

彼らについては、「悲しんで悔い改めるに至った」と言うことができる。」(各時代の斗争闘下巻 188)

不信心な恐れ

「ベルシャザル王は、その大臣一千人のために、盛んな酒宴を設け、……すなわち彼らは酒を飲んで、金、銀、青銅、鉄、木、石などの神々をほめたたえた。すると突然人の手の指があらわれて、燭台と相対する王の宮殿の塗り壁に物を書いた。王はその物を書いた手の先を見た。そのために王の顔色は変り、その心は思い悩んで乱れ、その腰のつがいはゆるみ、ひざは震えて互に打ちあつた。」(ダニエル 5:1～6)。

「騒々しい歓楽の声は静まり、男も女も名状しがたい恐怖におののいて、手が不思議な文字をゆっくりつづるのを見守った。彼らの目の前には、彼らの邪悪な生活の行状がパノラマのように現れた。彼らはたった今までその力に挑んでいた、永遠の神の審判廷に召し出されたように感じたのである。つい先程まで騒いで冒険的な言葉を言っていた人々の顔が青ざめて、恐怖の叫びをあげている。

彼らすべての中で最も恐怖におののいたのは、ベルシャザルであつた。バビロン国内において、その夜極限に達した神に対する反逆の責任は、他のだれよりもベルシャザルにあつたのである。王は神の力に挑戦し、神のみ名を冒涇したのであつたが、その神の代表者である目に見えない警護者の前で、恐怖のために体が麻痺してしまつた。良心が目覚めた。「その腰のつがいはゆるみ、ひざは震えて互に打ちあつた」(ダニエル書 5:6)。ベルシャザルは不敬にも、天の神に逆らつて自ら高ぶつた。そして「あなたは どうして、このようなことをするのか」とだれも言わないと思つて、自分自身の力に頼つたのであるが、彼は今、自分に委ねられたものの責任を問われなければならないことを悟つた。そして、彼の失われた機会と、反抗的態度に対しては、何の申し開きもできないことを知つたのである。」(国と指導者下巻 132)

「しかし、エルサレムに下つた刑罰に関する救い主の預言は、もう一つの成就を見なければならない。あの恐ろしいエルサレム滅亡も、そのできごとのほんのかすかな影にしかすぎないのである。すなわち、われわれは、選ばれた都の滅亡のなかに、神のあわれみを拒み、神の律法をふみにじつてきた世界の運命を見るのである。この地上で、幾世紀の永きにわたつて罪を犯し続けてきた悲慘な人類の歴史は、まことに暗いものである。それを考えるとき、だれしも心痛み、気はなえてしまう。神の権威を拒否する結果は、実に恐ろしいことである。しかし、さらに暗い光景が未来に関する啓示のなかに示されている。すなわち、混乱、争鬭、革命、「騒々しい声と血まみれの衣を持った戦士の戦い」(イザヤ書

9:5 英語訳) といった過去の歴史も、神の霊の抑制力が悪人たちから全く取り除かれ、人間の欲情とサタンの怒りを止めるものが何もなくなるその日の恐怖と比べるとき、ものの数ではないのである。そのとき、世界は、これまでかつてなかったほどに、サタンの支配の結果を見るのである。」(各時代の大争闘上巻 25, 26)

将来の保護のために準備する

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。」(マラキ 3:16, 17)。

「あなたの経験の暗い側を考え続けることによって、敵を喜ばせてはならない。誘惑に抵抗するためにもっと十分にイエスに信頼しなさい。もしわたしたちがもっとイエスのことを考え、このお方について語り、そして自分自身については少なく考え、語っていたならば、わたしたちにははるかにもっとこのお方のご臨在があったはずである。もしわたしたちがこのお方に宿っているならば、わたしたちは平安、信仰、そして勇気に満たされ、そしてわたしたちが集会に來たときに語るような勝利の経験をするようになり、神のためのはっきりとした力強い証によって、他の人々が活気づけられるようになる。このお方の恵みの栄光を讃美し、認めるこれらの尊い言葉は、キリストのような生活に支えられるとき、魂の救いのために働く、抗しがたい力を持っている。」(バグル・コメント [E.G. ホットコメント] 4 巻 1183)

「さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたのうしろの戸を閉じて、憤りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ。」(イザヤ 26:20)

「彼らが隠れる部屋とはなんであろうか。--- それはキリストと聖天使の保護である。神の民はこのとき、皆が一箇所にいるわけではない。彼らはあちこちで仲間たちと共にいるのであり、全地のいたるところにいるのである。そして彼らは団体としてではなく、個人的に試されることになる。各自が自分でテストに耐えなければならない。」(レビュー・アンド・ヘルド 1908 年 11 月 19 日)

生涯の実例

「ウズの地にヨブという名の人があった。そのひととなりは全く、かつ正しく、

神を恐れ、惡に遠ざかった。」(ヨブ 1:1)

「無我とは、神の王国の原則であり、サタンが憎む原則である。その存在そのものを、サタンは否定する。大争闘の当初から、彼は神の行動の原則が利己的であることを証明しようと努力してきた。そして、彼は神に仕えるすべての人々を同じ方法で扱っている。サタンの主張を論破なさるのが、キリストの働きであり、またこのお方の名を担うすべての人の働きである。……

世界歴史のごく初期に、サタンがある人をめぐってこの争闘を繰り広げ、その生涯の記録が記されている。ウヅの父祖であるヨブについて、心を探られるお方の証は「ヨブのように全く、かつ正しく、神を恐れ、惡に遠ざかる者の世にない」というものであった。

この人物に対して、サタンは、さげすんで非難した。「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか。あなたは彼とその家およびすべての所有物のまわりにくまなく、まがきを設けられたではありませんか。」……

主はサタンに言われた。「見よ、彼のすべての所有物をあなたの手にまかせる。」
「見よ、彼はあなたの手にある。ただ彼の命を助けよ。」

このように許可されて、サタンはヨブが持っていたものを一掃した。一羊や牛の群れも、しもべもはしためも、息子も娘も取り去られた。そしてサタンは「ヨブを撃ち、その足の裏から頭の頂まで、いやな腫物をもって彼を悩ました。」

そしてさらに彼のさかずきに苦悩の要素が加えられた。彼の友達が、この逆境を罪の報いだとみなして、彼の傷つき、重荷を負った精神を、悪行を責める告発で押しつぶしたのである。……

彼は「彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来る」と言った。そしてそのとおりになった。彼の忍耐強い辛抱によって、彼は自分自身の品性を立証し、こうして彼が代表していたお方のご品性を立証したのであった。……主はヨブにかつての二倍の所有をお与えになった。……こうして主はヨブをその当初よりも後に、祝福されたのである。」(神のむすこ娘たち 95)

わたしたちの唯一の希望

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。」(詩篇 46:1, 2)。

「どんな望み、喜び、悲しみ、わずらい、恐れもみな神の前におこう。なにをもってきて重すぎたり、神を疲れさせたりすることはない。頭の髪の毛でさえ

数えられる神は、子らの必要に無関心ではおられない。」(キリストへの道 137)

「いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は主に言うであろう、「わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神」と。主はあなたをかりゅうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもつて、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である。あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。また暗やみに歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。たとい千人はあなたのかたわらに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災はあなたに近づくことはない。あなたはただ、その目をもつて見、悪しき者の報いを見るだけである。あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。」(詩篇 91:1～10)

「詩篇第 91 篇は、悪人の悪に終わりを告げ、主を自分の贖い主として選んだ人々に、ご自分の愛と保護の守りの保証を与えてくださる主の再臨についてのものともすばらしい描写である。

神のさばきがあわれみなく下るときには、悪人たちにとって「いと高き者の隠れ場」、すなわち主がご自分を愛し、ご自分の戒めに服従してきたすべての人々を隠してくださる仮屋に住む人々の立場は、どれほどうらやましいものでしょうか!このようなときに、義人の受ける分は、自分の罪のために苦しむ人々にとって、実にうらやましいものである。しかし憐れみの戸は、悪人に対して閉じられている。恩恵期間が終わってからは、彼らのために捧げられる祈りはもはやないのである。」(バイブル・コメンタリ [E.G. 柯什コメント] 3 巻 1150)

に吹(ふ) きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく」ともおおせになります(エペソ 4:14)。これはどういういみでしょうか？

ほとんどの子どもは、みちびいてくれる大人がいないとしっかりおちついていられません。彼らはいならされていない野生(やせい)の動物(どうぶつ)のようになってしまいます。神さまをおそれる家族(かぞく)がいなければ、彼らはなにを信(しん)じるべきで、なにを信じてはいけなかがわからないのです。だれでもあらゆるしゅるいのウソで彼らをすっかりわけがわからなくさせてしまうことができます。ですから、神さまは大人に子どもたちのようにふるまうことなく、かえってキリストの真理(しんり)のうちに確信(かくしん)をもってしっかりおちついていなさいとおおせになるのです。

ときどき、おやがあなたや、あるいはほかの大人にむかってさえ、「そんな赤ちゃんのようになってはいけません。子どもじみてはいけません」というかもしれません。彼らはつまり、しつけも自制(じせい)もない人のようになってはいけませんといっているのです。赤ちゃんがなくのは、話(はな)すことができず、どうやってふるまうべきかしつけられていないからです。しかし、もっと大きくなれば、自分(じぶん)を中心(ちゅうしん)にすることなく、ちゃんと礼儀(れいぎ)ただしくおねがいし、さらにほかの人々をたすけるほどの忍耐力(にんたいりょく)があるはずです。

ですから、これが、子どもじみていることではなく、むしろ子どものようであることをのぞむ理由(りゆう)です。そのとき、わたしたちはあたらしい新鮮(しんせん)なお花(はな)のようにほほえみ、さくことができます。わたしたちはほかの人たちをゆるし、きよいことを考えることができます。これこそ、キリストがご自分のかたちにつくられたすべての人のためのご計画(けいかく)です。これこそ、このおかたが「心(こころ)をいれかえて(つまり、改心(かいしん)して)幼な子(おんなご)のようにならなければ、天国(てんごく)にはいることはできないであろう。この幼な子(おんなご)のように自分を低(ひく)くする者が、天国(てんごく)でいちばん偉(えら)いのである」(マタイ 18:3, 4)。「改心(かいしん)する」というのは、まわれ右(みぎ)をしてむきを逆(さか)にすることといういみです。つまり、悪い考(かんが)えや習慣(しゅうかん)から、むきをかえて神様のほうへむかうことです。わたしたちは、自分のおやを見上げている小さな子どものように、自分を低くする者とならなければなりません。自分がだれでもほかの人よりよくできるとか、偉(えら)いとか考(かんが)えるではありません。わたしたちがこのように自分を低くするとき、キリストは品性(ひんせい)において、ご自分のようにならせるために、わたしたちを引き上げることがおできになります。そしてそれは、大人のくつをはくよりずっとすばらしいことです！

豆乳あずき寒天

〔材料〕

豆乳	500ml
水	1/2 カップ
はちみつ	2/3 カップ
小豆	150g
粗糖	100g
塩	ひとつまみ
寒天粉	4g

〔作り方〕

◎あんこ

1. 圧力なべに小豆を入れ、3 倍量の水を入れて、強火にかけます。
2. 圧がかかったら弱火して 15 分後に火を止めます。
3. 圧が下がったらふたを開け、小豆をザルに上げます。（煮汁は粘膜に
よいので、別にとっておいて飲まれてもよいです）
4. 小豆をなべに戻して粗糖を加えて弱火で煮ます。
5. 一文字が書けるくらいの固さになったら、塩を加えて火を止めます。

◎寒天

1. 別のなべに水を入れ、寒天の粉を入れて、火にかけます。
2. はちみつを加えて、わいたら、あんこと豆乳を加えてまぜます。
3. 容器に入れて、冷やしてお召し上がりください。

お好みで、杏仁霜やココナツクミルクを入れると、一味違った風味が楽しめます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



小さいときに、大きくなる

おかあさんやおとうさんのくつを、一回もはいてみたことのない子どもっているでしょうか？そのくつはとってもとっても大きくて、あなたのかかととくつのかかとのあいだはとてもあいていて、ぶかぶかですね。でも、なんとかへやの中をあるきまわって、おとうさんやおかあさんのふりをしてみます。まだ小さいときに、大きくなったかのようにしてあそぶのはおもしろいですね！

イエスさまは小さい子を受（あい）しておられます。そして、じじつ、大人（おとな）にあるいみにおいて、もっと子どものようになりなさいとおおせになります。このおかたは、「だれでも幼（おさ）な子のように神（かみ）の国（くに）を受（う）け入れる者（もの）でなければ、そこにはいることは決（けつ）してできない」とせつめいしておられます（ルカ 18:17）。なぜイエスさまはこのようにおっしゃったのでしょうか？

キリストは、子どもたちのほうが、ほかの人たちをすぐにゆるし、考えることが大人よりむじゃきなことをごぞんじです。なぜでしょうか？子どもたちは大人のように長く生きていませんから、みじかい人生（じんせい）において、それほど悪（わる）いことをみていません。おおくの年上の人々は、この悪い世（よ）の中にいた長いあいだに、かなしいことを子どもたちよりもっとみてきました。ですから、イエスさまは年上の人たちに自分たちがくるしんだ悪いことや有害（ゆうがい）なことをみんなわすれて、あたら



しい新生（しんせい）の赤ちゃんだったとき、どんなにしあわせだったかを思い出しなさいといわれます。

では、もう一つしつもんがあります。キリストは大人たちに子どものようになりなさいとおっしゃただけでしょうか？あるいはときには、子どものようにならないようにといわれ

たでしょうか？このお方はご自分のみことばの中でまた、「わたしたちはもはや子供ではないので、……様々（さまざま）な教（おしえ）の風（かぜ）